

長寿医療に関する国際研修プログラム開発とその効果検証に向けた研究（27-3）

主任研究者 遠藤 英俊 国立長寿医療研究センター 長寿医療研修センター長

研究要旨

国際共同研究推進、国際協調の促進のため研究成果・グッドプラクティスの集約・共有、ケアや予防を担う人材の教育が喫緊の課題である。本研究は外国人に対する認知症や高齢者医療研修を整備し、国際交流を促進していくことを目的とする。具体的には、①職種・期間に応じた研修プログラムの開発、②テキスト作成、③海外大学・医療機関との連携の促進を内容とする。①に関しては、これまでに研修実績のある医師・看護師・リハ職を対象とし、2週間の研修プログラムを作成する。当初プログラムはプロトタイプとし、逐次検証と改訂を行うこととする。海外連携促進は、アジア地域を中心に、研修受け入れ実績のある機関を中心として、人材交流促進から開始して連携強化を図る。認知症予防・ケア等の分野での国際基準策定等の成果につなげられるよう、相対の関係にとどまらず、長寿医療センターをハブとする関係を構築し、高齢者医療や認知症の分野で、アジアの要となることを目指す。これらの研修により、その成果をモニタリングし、世界に高齢者医療、認知症医療、老年看護、高齢者介護に関する研修の成果を示す計画である。

主任研究者

遠藤 英俊 国立長寿医療研究センター 長寿医療研修センター長

分担研究者

荒井 秀典 国立長寿医療研究センター 副院長

牧 陽子 国立長寿医療研究センター 研修開発研究室長

A. 研究目的

平成26年11月に日本で開催されたG7認知症サミット後継イベントにおいて、国際共同研究推進、国際協調の促進のため研究成果・グッドプラクティスの集約・共有、ケアや予防を担う人材の教育が今後の課題として確認された。また、認知症の地域包括ケアの文化的感受性（culturally sensitivity）に鑑みて、北米・ヨーロッパの二極に対する一極としてアジアからの発信を積極的に推進していくため、ナショナルセンターである長寿医療センターがアジアの拠点となるべく国際化を推進していく必要があると考える。本研究の目的は、長寿医療研修センターにおいてアジアを中心とする外国人に対する認知症や高齢者医

療研修を整備し、国際交流を促進していくことで貢献することである。それを実現するための、標準的研修プログラムの作成、英文テキストの作成を行うことを目的とする。

B. 研究方法

(1) 全体計画

長寿医療に関する知識経験の国際的均てん化、標準化を目的に様々な研修を立案し、研究対象とする。①職種・期間に応じた研修プログラムの開発、②テキスト作成、③海外大学・医療機関との連携の促進を内容とする。①に関しては、これまでに研修実績のある医師・看護師・リハ職を対象とし、2週間の研修プログラムを作成する。当初プログラムはプロトタイプとし、逐次検証と改訂を行うこととする。さらに、日本における地域包括ケアを具体的に学ぶために、視察・実習も行う計画である。プログラム開発にあたっては、研究期間中に滞在する外国人研修生の協力を得て、研修を受ける側のニーズを踏まえた内容としていく。②のテキスト作成は、すでに日本語で作成されているテキストの英訳を中心として、進めていく。③の海外連携促進は、アジア地域を中心に、研修受け入れ実績のある機関を中心として、人材交流促進から開始して連携強化を図る。認知症予防・ケア等の分野での国際基準策定等の成果につなげられるよう、相対の関係にとどまらず、長寿医療センターをハブとする関係を構築し、高齢者医療や認知症の分野で、アジアの要となることを目指す。

(2) 年度別計画

27年度

海外研修の受け入れ、海外研修生のための長寿医療プログラムを作成した。当初は医師向けのプログラムを作成し、またプログラム作成にあたっては既存のテキストを参考にしつつ、海外研修生のニーズも踏まえ新規のテキストを作成した。同時に海外研修生受け入れの基盤整備を行い、受け入れ内規も作成した。

28年度

今年度作成する英文テキストを元に、研修生を受け入れ後、プログラム検証を行う、作成したプログラムの改定や、看護・リハ職向け研修プログラムを開発し、研修を研究対象とする。初年度作成した研修内規は英日両語で作成する。

29年度

台湾・タイ国等これまで交流のある国から、連携促進、研修相互交換プログラムを図っていく、最終的には長寿医療センターをハブとする関係を構築し、積極的に研修を受け入れ、高齢者医療やケア、そして認知症の分野においても、アジアの要となることを目指す。

(倫理面への配慮)

現時点では患者を対象とした研究ではないため、倫理面への配慮は大きな問題とはならない。しかし研究実施上、今後インタビューなど個人情報扱う必要があれば、当然倫理委員会に申請し、承認の後実施する。匿名化し、倫理的配慮を最大限行うこととする。

C. 研究結果

主な研究事業として、さまざまな国からの留学生、研修生に対して対応可能なプログラムの作成を行った。短期であり、長期であり、日本の高齢者医療の体系や長期介護、認知症対策について、講義、演習、国際交流を行った。海外研修生の受け入れプログラムの作成、受け入れ内規の整備も行った。日本語の認知症研修テキストは改定中であったため、英訳は平成 28 年度に行うこととした。今年度は以下の表にあるような、長期のタイからの長期海外研修生の受け入れを実施した。長期の場合には VISA の取得などさまざまな手続きが必要であった。

表 1. 海外研修受け入れ一覧

1	Intalapaporon Somboon	タイ	遠藤主任 研究者	H27.1.19—H27.7.2
2	Dr.Apirath Phulsawat	タイ	遠藤主任 研究者任 研究者	H28.3.7—H28.3.18
3	Dr.Chung-hao Lin (林宗豪)	台湾	千田医師 (遠藤主任 研究者)	H28.3.1—H28.3.31

D. 考察と結論

海外研修生に資する人材育成を行った。プログラムの改良は今後も必要であるが、一定の成果があり、実際の活動につなげることが可能な研修であった。今年度はタイと台湾を中心に研修生の受け入れを行った。またマレーシアの研修はリハビリテーション職も参加しており、今後のさらなる関係の発展や、留学受け入れの希望もあり、多大な成果を得たといえる。結論としては、特にアジア地域の高齢化は最大の問題であり、今後医療や介護職の視察、研修が急増するものと思われる、当研修センターとして今後さまざまなメニューの作成を行い、テキストの英文化や、現地の言語化が必要であることが強く求められており、その分野への研究事業を展開する必要がある。

E. 健康危険情報

該当せず

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Aya Seike, Takashi Sakurai, Chieko Sumigaki, Akinori Takeda, Hidetoshi Endo, Kenji Toba: Verification of the Educational Support Intervention for Family Caregivers of Persons with Dementia, Journal of the American Geriatrics Society, 2016.3
- 2) Fumihiko MIZOKAMI, Yoshiko TAKAHASHI, Keiko HASEGAWA, Hideyuki HATTORI, Keiji NISHIHARA, Hidetoshi ENDO, Katsunori FURUTA, Zenzo ISOGAI
Pressure ulcers induced by drug administration: A new concept and report of four cases in elderly patients, Journal of Dermatology 2016;43:436-438
- 3) 遠藤英俊、佐竹昭介、平野優: 患者の立場に立った BPSD 対応法 老年精神医学雑誌: 第 26 巻第 11 号, 2015.11 別刷
- 4) 遠藤英俊: 認知症の予防 内科医からみた認知症予防: 日精診ジャーナル 42 巻 1 号, 31-38, 2016.1

2. 学会発表

- 1) 遠藤英俊、佐竹昭介、鳥羽研二: 基礎疾患の異なる個々の患者に最適な具体的支援策とは, 第 29 回日本医学会総会, 2015 年 4 月 11 日(土), 京都
- 2) 加藤昇平、遠藤英俊、永田理紗子、佐久間拓人: 認知課題遂行時脳血流の MCI サブタイプ比較分析, 第 54 回日本生体医工学会大会, 2015 年 5 月 7-8 日, 名古屋市熱田区.
- 3) 遠藤英俊: 「総合評価加算について(オリエンテーション)」
第 57 回日本老年医学会 高齢者医療研修会 座学, 2015.6.12(金) 横浜
- 4) 遠藤英俊: 「高齢者在宅医療」
第 57 回日本老年医学会 高齢者医療研修会 座学, 2015.6.12(金) 横浜
- 5) 遠藤英俊: 「認知症の薬物治療～包括的医療の今後の展望を踏まえて～」
第 57 回日本老年医学会 セミナー, 2015.6.13(土) 横浜
- 6) 遠藤英俊: 「高齢者総合機能評価 計画の作成」
第 57 回日本老年医学会 高齢者医療研修会 ワークショップ, 2015.6.14(日) 横浜
- 7) 遠藤英俊: 「認知症ケア最前線—予防、治療と対応法—」
第 14 回日本ケアマネジメント学会 モーニングセミナー, 2015.6.14(日) 横浜
- 8) 溝神文博、服部英幸、西原恵司、遠藤英俊、古田勝経、磯貝善蔵: 薬物誘発性褥瘡～高齢者における新たな薬物有害事象～第 57 回日本老年医学会 一般演題 口述発表

O-78, 2015.6.14(日)横浜

- 9) 千田一嘉、佐竹昭介、西川満則、徳田治彦、三浦久幸、遠藤英俊:CPAP外来における高齢睡眠時無呼吸症候群患者の大府研究基準を用いたフレイルの評価
第57回日本老年医学会 一般演題 ポスター発表P-43, 2015.6. 13(土)横浜
- 10) 遠藤英俊、佐竹昭介、三浦久幸、西川満則、高梨早苗、平野優:終末期医療に関する医学・看護教育の現状に関する研究
第57回日本老年医学会 一般演題 ポスター発表P-77, 2015.6.13(土)横浜
- 11) 佐竹昭介、千田一嘉、洪 英在、三浦久幸、遠藤英俊、近藤和泉:基本チェックリスト総合点による健康障害発生の予測、第57回日本老年医学会 一般演題 ポスター発表P-119, 2015.6.14(日)横浜
- 12) 加藤昇平、遠藤英俊、永田理紗子、佐久間拓人:認知課題遂行時脳血流のMCIサブタイプ比較分析, 第54回日本生体医工学会大会, 2015.5.7(木)-9(土)
- 13) 清家 理、櫻井 孝、住垣千恵子、武田章敬、福田耕嗣、遠藤英俊、鳥羽研二:「介護者の介護負担軽減へのアプローチ 一 段階的教育支援プログラム開発研究より -」第34回日本認知症学会学術集会, 2015. 10. 4(日) 青森
- 14) 遠藤英俊:新しい高齢者医療とケア～認知症と終末期看護を中心に～
第18回日本腎不全看護学会学術集会 特別講演2, 2015.11.15(日)名古屋
- 15) 遠藤英俊:内科医からみる認知症と地域包括ケアシステム
第 35 回日本社会精神医学会 シンポジウム 5, 2015.1.29(金)岡山
- 16) 遠藤英俊:生活習慣病に対する人工炭酸泉の効果
第 17 回日本健康支援学会 2016.2.28(日)名古屋

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし